

所管事務調査の報告

産業建設委員会

令和5年11月14日から16日にかけて、岐阜県瑞浪市、長野県松本市、埼玉県新座市で調査を行いました。

地場産品ブラッシュアップ事業

瑞浪市では、地場産品の監修をグローバル企業に委託し、ふるさと納税返礼品として魅力ある商品の開発や改良を行っている。これにより、地元業者の販売意欲が高まり、新たに若年層の顧客を獲得し、ふるさと納税の寄付額増加につながっていた。

新まつもと物語

松本市では、平成17年に観光戦略本部を設置し、「新まつもと物語」と銘打って、外国人を含む市民記者による記事を掲載した公式ガイドブックを発行するなどの取り組みを行っている。市民が主体となって魅力あるタイムリーな観光等の情報を市内外へ発信するなど、市を挙げた一大プロジェクトが継続されていた。

いざいビジネスサポート事業

新座市では、令和4年度から市役所内に経営のワンストップ相談窓口を設置し、中小企業診断士が創業支援、販路拡大、補助金申請などを無料でサポートする取り組みを行っている。地元業者の経営課題解決のために、効率的な支援が行われていた。

○委員所感

3市とも、官民の密接な連携が取れた素晴らしい取り組みであった。本市においても、市民と一体となったまちづくりを目指していくべきであると感じた。



新座市議場にて

議会と語ろう会

いぶすき農業協同組合の皆様と実施しました。

詳細は市ホームページをご覧ください▶



指宿市議会では、指宿市議会基本条例に基づき、令和5年11月8日に議会と語ろう会を開催しました。主な問答を紹介します。



問

イノシシなどの鳥獣被害が増えている。農家もさまざまな対策をとっているが、なかなか減らない。猟友会への要請に併せて、大型の箱わなを農家も設置できるように働き掛けてもらいたい。また、電気柵の補助金の増額をお願いしたい。

答

猟友会の会員数は、現在60人と聞いているが、高齢化等もあり全員が活動できる状況ではないようである。箱わなの設置については、規制があり難しいようだが、対策を講じなければ被害は増える一方であるため、電気柵の補助金も含めて、市や県に働き掛けていきたい。